

「慰安婦」問題の解決を求める街頭スタンディング。

2月13日(水)
第800回水曜デモ連帯行動



800回

日本政府による法的な解決を求めます！
日本軍「慰安婦」被害者とともに

昨年7月、米国下院本会議では、日本軍「慰安婦」問題に関する対日勧告決議が採択されました。

「明確かつ曖昧さのない形で正式に認め、謝罪し、歴史的責任を受け入れるべきである」との決議が全会一致で採択されたのです。オランダやカナダ、欧州議会でも同様の決議がなされ、これまでの日本政府の対応が厳しく批判されました。

日本政府は1995年に「女性のためのアジア平和国民基金」を設立し、韓国、台湾、フィリピンの被害者に対する「償い金」の支給などによって問題解決を図ってきましたが、日本政府の法的賠償と公式謝罪を求める被害者と支援者の願いに応えることはできませんでした。昨年3月、「国民基金」は様々な問題を残したまま解散しました。

毎週水曜日、ソウルの日本大使館前では日本軍「慰安婦」被害者や支援団体の女性、若者たちによって定期集会が開かれています。1992年1月に始められたこの「水曜デモ」は、今年2月13日に800回目を迎えます。厳寒のソウル、高齢の被害者にとって日本政府の対応はどれほど冷たく感じられるでしょう。一刻も早い問題解決が求められています。

みなさん、ぜひ一緒に声をあげましょう！

早よつくろう！「慰安婦」問題解決法・ネットふくおか
連絡先：092-713-1879（花房）

ソウル日本大使館前 第800回水曜デモに連帯する福岡行動

凍てつくソウルの日本大使館前で92年より続けられている水曜デモは2月13日で800回を迎えます。

800回という、途方もない数字を重ね、高齢の日本軍「慰安婦」被害者は何を訴えているのでしょうか？

凍てつくソウルの日本大使館前で2月13日に行われる水曜デモは、92年より毎週続けられて実に800回を迎えます。

800回という途方もない数字を重ね、高齢の日本軍「慰安婦」被害者は何を訴えているのでしょうか？

昨年は国際社会からアメリカをはじめとして議会決議という形で日本への要請が相次ぎました。

国際社会は「慰安婦」制度を「強制売春制度」であり、許されない人権侵害と認識しています。どのように連れて来られたのか、お金をもらったかどうかは問題ではなく、戦争を遂行するために、日本軍が女性を自由のない慰安所に閉じ込め、女性の性を道具とする「慰安所制度」をシステムとしてつくったことが問題なのです。慰安所設立の目的は、女性の性を利用して兵士の性を管理することによって、よりよく闘う兵士をつくりだすことにあったのです。

被害女性は、人間としての尊厳が踏みにじられ、屈辱と恐怖の体験の後、心身の傷を抱えながら戦後を生き抜いてこられました。彼女たちは日本政府が罪を認め、責任を認め、公的に謝罪することを願っています。

日本国内では、女性たちがこれまで勝ち取ってきた権利や法律に対するバッシングが相次いでいます。一例として、近親者による暴力から被害者（多くは女性）を救済するDV法が「家庭を壊す」と攻撃されています。攻撃しているのは「慰安婦」被害者を「慰安婦はお金をもらっていた公娼である」「民間業者のやったことで、軍に主たる責任はない」として「河野官房長官談話」の白紙撤回を求めている人たちです。

日本軍「慰安婦」問題が戦争犯罪であり、女性に対する重大な人権侵害であると政府が明確に認定していないから、性暴力を根絶するとの政府の意思を明示できず、このような人権状況の後退を招いています。

今を生きる私たちが、平和で生きることが楽しい社会を作るためにも、又、アジアの人々の旧日本軍による戦争被害の傷を癒し、和解し、平和的に共存していくためにも、性暴力被害者の痛みを想像し、寄り添い、日本軍「慰安婦」問題の「解決」への願いを持ってくださることを皆様に訴えます！！

早よつくろう！「慰安婦」問題解決法・ネットふくおか